

平成 20 年度 第 3 回 平塚市博物館協議会 会議録

開催日時

平成 21 年度 3 月 27 日（金）10 時～12 時

開催場所

平塚市博物館 特別研究室

会議出席者（敬称略）

会 長 江藤 巖

委 員 立山 洋典、森島 啓子、牧野 久実、井上 太郎、片山 興大

事務局 明石館長、井上館長代理、鷹館長代理

会議の概要

- 1 開会あいさつ
- 2 館長あいさつ
- 3 会長あいさつ

江藤会長：年度末の第 3 回協議会ですが、協議員 6 名全員出席で会議が成立しました。

4 議 題

（ 1 ）報告事項について

事務局から協議会説明資料により説明。

〔 質疑応答 〕

委 員：プラネタリウムの観覧者に熟年層が多くなっているとのことですが、博物館まつりの感想に「長文・小文字が読めない」とありましたように、実際に、常設展でも 50 歳・60 歳の熟年層の入館者からそうした声を聞きます。また専門用語や地名などで読めない字もあるようです。もう一工夫していただき、馴染みやすい適宜な展示説明を考えていただければと思います。

事務局：博物館まつりの展示はサークルの会員が主体的に行っていますので、館としてあまり細かいところまで立ち入っていないのですが、常設展の展示も含め、今後、熟年層が多いことに配慮して、展示室の照明も含め、明るく見易いわかりやすい展示を考えていきたいと思っています。

事務局：特別展なども情報をたくさん出したいために、つい書き過ぎてしまう傾向にあります。貴重なご提言をふまえて今後検討してまいりたいと思います。

委 員：展示説明として発信したい情報については、持ち帰り資料を印刷して準備すると良いと思います。

（ 2 ）21 年度事業計画（案）について

事務局から協議会説明資料により説明。

(3) 21年度予算について

事務局から協議会説明資料により説明。

〔質疑応答〕

委員：このような経済状況で、当局がマイナスシーリングを出してくるのもやむを得ないとは思いますが、他人事ではないと苦勞が身にしみて理解できます。これまで最も良好な経済環境時の予算というのは、いつ頃、どのくらいの予算がついていたのでしょうか？

事務局：2004年は(1億5000万円をかけて)1階の常設展示替えを行い、一番多くなっています。

委員：先ごろ全国のプラネタリウムの人気投票ランキングを見ました。例年上位の名古屋市などは解説者も素晴らしいのですが、最新鋭の機器を入れるなど、金の掛け方が違う気がします。平塚のプラネタリウムのスタッフも素晴らしい専門性を持っていて、いつも敬愛しているのですが、現場スタッフの努力だけでは限界があると思います。人材に頼るだけでなく、どこかで適度な先端機器の導入が必要であると思います。

事務局：いくつかある課題のなかでも、投影機が更新されないことが最大の課題と考えています。毎年、更新してほしいと声を発していますが、理解されていても、厳しい状況で、なかなか予算が付きません。今年、館の耐震診断を行いました。その耐震補強工事を機会に、プラネタリウムの投影機も更新してもらえればありがたいのですが。

委員：観客数を増やすことを重視しているわけではないのですが、最新鋭機器の導入が難しい現状のなか、将来、科学への興味を持つ子供達を増やしていこうという啓発活動の効果을上げていくには、現在のような地道なやり方で解説員の才能と努力でクリアしていくしかないのかなと思います。

事務局：最近プラネタリウム室を使った投影以外のイベントを数多く行っています。市民の方が博物館プラネタリウムのこうした面にも眼を向けてくださればと思います。

事務局：話がずれてしましますが、監査の評価基準として、入館者・観覧者数以外に指標は無いのだろうか、もう少し違う指標を提案できないかと考え、試みに作ったのが年報に載せたグラフです。費用対効果という点では、展示替えで金を掛けると入館者1人あたりの費用が高くなるわけですが、そういう見方とは別のファクターをいろいろ考えてみました。まず、普通の入館者と、特別展見学者や事業参加者とを、同じ「1人」と数えて良いのか、ということがあります。特別展や館外に引率しての活動など、我々がエネルギーをかけた事業については、1人あたりの労力というファクターというものがあります。棒グラフで示したように、開館当初に比べ入館者数が少しずつ減って、10万人だったのが5~7万人で推移していますので、人数だけではお金をかけた効果・メリットが無いように見えます。しかし折れ線グラフで見ますと、1998年から2000年ぐらいを底にして右肩上がりになっています。この頃からいろいろな事業の参加者が増え、博物館まつりの参加者が展示や資料を作ったり、パワーを発揮し始めている

など実感しています。こうした館を利用している人のパワーなどを勘案すると、博物館全体としては今上昇傾向にあり、活性化し続けているのではないかと考えられます。実は、展示替えなどでお金を掛けた効果は確かにありまして、展示替えで一時的に予算が膨らんで1人あたりの費用は高くなりますが、数年で回復して右肩上がりになります。掛けた経費は取り戻し、有効に機能していると言えます。ですから、ある程度の年限で展示替えやプラネタリウム機器の更新を行うことは、決して市民にとってもマイナスではないし、経費の無駄使いではないと思います。今後、ファクターを一般化・普遍化できるように考えていきたいと思います。

委員：映画館や劇場などは1公演・一幕あたりの時間が決まっているので、入場者数が人気の確かな評価基準になりますが、博物館の場合、館内での滞在時間をもとに評価できたならば、グラフはかなり良い形に上がってくると思います。ただ民間会社と違って、教育的・文化的効果を果たす博物館について、利益や金銭的に博物館を見ていくことは賛成できません。確かに経費の掛かり方をどこかで見ていく必要はあると思いますが。

委員：学校への出張で「縄文土器作り」など、いろいろな授業をやらせているので、統計の取り方はいろいろあると思います。

事務局：外に向けての活動はデータとして入れていないのです。

委員：数値化が難しいですが、見学時間のほかに、満足度を測る良い指標が見つかると思いますね。見学後にお礼を言って帰られる方とか、繰り返し訪れる方など、把握しにくい面がありますが、決して費用対効果では測れないものがあると思います。

事務局：そうした満足度を上げることでは、展示ボランティアの方の貢献度が高いと思います。数字で、というのはなかなか難しいですね。

委員：自治体が、数字で論破して業績や経済効果を求めるのならば、初めから博物館を作らなければいいわけで、博物館を持つということは、その自治体の文化の高さを象徴するシンボリックなものだと思います。そこにお金を出し、それを市民に納得してもらうということは、平塚市民全体の文化度の高さだと思っています。財政当局には、数字ではなく、博物館がそうした文化度をはかるものであるという観点で理解して認めてもらわなければならないと思います。

事務局：まず学校の耐震工事など生命に関わるものを先に、という状況はわかっているわけですが。

委員：忍の一字ですね。

委員：予算を減らされた経験からですが、他からお金を取ってくることも考えようと、特別展などで科学研究費を取ってきて、資料整理など他のお金で使う工夫をしていました。また、減らしづらい予算のなかで、OA機器が特に大きかったのですが、館内のデータベースの利用者数を調べてみると、意外に利用されていなかったもので、余りにお金が掛かり過ぎて利用者が少ないものは別のやり方に変えとか、OA機器を極力使わ

ない形に変えて、かなり節約できたと思います。

事務局：10年ぐらい前から比べれば、意外とお金が掛かっていませんし、ホームページや出版物とも絡んで構築していますので、これを外すと現実的に支障が出ると思います。今回も仕様を作る際には安いところに頼むなどして随分削ってはいますが、今のやり方を続けていく限りは、この程度は掛かることになります。

委員：科学研究費のほかに、何かユニークな事業にお金を助成してくれる民間団体などはありませんか。

事務局：子ども夢基金などがありますが、役所の仕組みのなかでは、私どもが実際に使えるようになるのが10月以降になってしまい、現実には非常に使いづらいと思います。ただ、できるだけ使えるものは使いたいと思っています。

事務局：私どもの学芸員は、仕事に対する意識は非常に強いものがありますから、ここ数年、今のところは現状維持プラスの姿勢で何とかしていこうと対処していますが、予算削減でいずれ限界が来た時には、そうしたことも一つの方策として検討していかなければならないと思います。

委員：先日、「金目川の博物誌」の特別展の解説を校長会も聞かせてもらったほうが良いということで、博物館に引き受けていただいたのですが、学芸員の皆さんを知ることができて良かったと大変喜んでもらえました。学校側も博物館にお世話になっていますが、意外に博物館の中身のことは知らない状況なので、特別展などいろいろな機会に、学校運営の情報・宣伝活動で、博物館事業の普及をしていただければ、と思います。夏休みの特別展「ガリレオから400年」も面白そうなので、前もって情報を流していただければ、それなりに対応すると思います。

委員：私どもの学生も何人かインターンシップでお世話になっていますが、小・中学校の教員志望の学生にとって遠い存在の博物館や学芸員の仕事を知ることができて、将来、生徒達を博物館で活動させる場合にもインターンシップ活動が役立っていると思います。

(4) その他

(事務手続き上のお願い、委員退任の挨拶など)

(次回日程は後日連絡)